

ゴナドトロピン分泌異常症に関する研究

研究分担者

蔭山 和則 弘前大学大学院医学研究科 准教授

杉野 法広 山口大学大学院医学研究科 教授

井野元 智恵 東海大学医学部 講師

水野晴夫 国際医療福祉大学・医学部・教授

堀川玲子 国立研究開発法人国立成育医療研究センター・内分泌代謝科・医長

神崎晋 鳥取大学・医学部統合内科医学講座 周産期・小児科学分野・教授

研究要旨

「下垂体ゴナドトロピン産生腫瘍の診断と治療の手引き」及び「ゴナドトロピン分泌低下症の診断と治療の手引き」について主に改訂を加えて、診療ガイドライン作成の試案についてまとめた。

A. 研究目的

下垂体ゴナドトロピン産生腫瘍とゴナドトロピン分泌低下症における診療ガイドライン作成を行うことを目的とする。

B. 研究方法

これまでの診療ガイドラインについて国内外の資料について検討する。研究代表者の試案を元にして、グループ内で検討する。グループとしての試案をまとめ、研究会議で更に議論をして、改正する。

（倫理面への配慮）

個人を特定できるようなデータは使用しない。

C. 研究結果

下垂体性ゴナドトロピン産生腫瘍：本手引きでは機能性腫瘍を対象とすると明記、改訂した。病理所見で、転写因子 SF-1、FSH もしくは LH の  $\beta$ -サブユニット、または  $\alpha$ -サブユニット陽性所見も参考とすると改訂した。

ゴナドトロピン分泌低下症：参考所見について、ゴナドトロピン負荷に対して性ホルモン分泌増加反応を認めることが多いが、先天性では反応が低下することもあると改訂。治療の手引きを、男性、小児女性、成人女性に分けて、詳述した。

D. 考察

グループとしての試案を、班会議で更に議論した結果、改訂をすることとした。

## E. 結論

下垂体ゴナドトロピン産生腫瘍とゴナドトロピン分泌低下症における診療ガイドライン作成の試案についてまとめた。

## F. 健康危険情報

略

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

Kageyama K, Sakihara S, Kameda W, Sugiyama A, Takayasu S, Terui K, Daimon M. Evaluation of growth hormone-releasing peptide-2 for diagnosis of thyrotropin-producing pituitary adenomas. *Endocr J* 2018, 65, 1049-1054.

Yagi H, Kageyama K, Kinoshita N, Niioka K, Yamagata S, Ito E, Daimon M. Relaxin-3 regulates corticotropin-releasing factor gene expression in cultured rat hypothalamic 4B cells. *Neurosci Lett* 2018, 692, 137-142.

### 2. 学会発表

蔭山 和則, 八木 弘子, 木下 敬子, 伊藤 悦朗, 大門 眞: Relaxin-3 による視床下部 4B 細胞における *Crf* 遺伝子発現調節機構の検討. 第 45 回日本神経内分泌学会, 東京, 2018

蔭山 和則, 大門 眞: シンポジウム 下垂体腫瘍発症、増殖と機能分化のメカニズム. 第 28 回臨床内分泌代謝 Update, 福岡, 2018

井野元 智恵: 佐野賞受賞講演 下垂体腺腫の臨床病理学的検討. 第 22 回日本臨床内分泌病理学会, 徳島, 2018

井野元 智恵, 加戸伸明, 宮嶋葉子, 伊藤仁, 中村直哉: シンポジウム 脳腫瘍病理の細胞診 WHO 分類第 4 版改訂版を踏まえて 下垂体腫瘍の細胞診. 第 57 回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018

井野元 智恵: トルコ鞍近傍腫瘍の病理. 第 36 回日本脳腫瘍病理学会教育セミナー, 東京, 2018

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし